

学会員（教員）研究動向 [2007.4～2008.3]

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
秋葉 武	論文(単著)	「1960年代における NPO の生成—市民活動の析出—(上)」(『立命館産業社会論集』43巻1号) 23-34頁	2007.6
	論文(単著)	「1960年代における NPO の生成—市民活動の析出—(下)」(『立命館産業社会論集』43巻2号) 45-60頁	2007.9
	講師	「ソーシャル・マーケティング I・II」(明治大学教育振興部/(特活)地域と協同の研究センター主催, 於: 明治大学)	2007.9.14
	講演(司会)	「社会企業家のためのベンチャー・キャピタル: 社会的起業の促進と支援」(駐大阪・神戸米国総領事館 関西アメリカン・センター主催, 於: 駐大阪・神戸米国総領事館)	2007.10.7
荒木 穂積	訳書(監訳)	レベッカ A. モイブ著 『自閉症スペクトラム学び方ガイド—社会参加を見通した授業づくり』(森由美子, クリエイツかもがわ) 全204頁	2008.2
	論文(共著)	「自閉症スペクトラム児の常同行動の変化と遊びの発達—3年間のプレイセラピーの分析から—」(『心理教育相談センター年報』6号)	2007.9
	研究発表(単独)	「軽度発達障害乳幼児の早期発見と早期対応をめぐる」(日本保育学会第60回大会自主シンポジウム, 於: 十文字女子学園大(埼玉))	2007.5
	研究発表(単独)	「集団遊びに着目した学童期プログラムの開発の試み」(立命館大学特別公開シンポジウム「高機能自閉症児およびアスペルガー症候群児の学童期の発達特徴と教育的支援」, 於: 立命館大学)	2007.12
	研究発表(単独)	「発達障害児の支援とインクルーシブな地域づくり—舞鶴市の課題」(発達障害者支援シンポジウム—厚生労働省障害者自立支援調査研究プロジェクト—, 於: 舞鶴市)	2008.2
	その他(単著)	「結社研究の最近の動向—ドイツの事例を中心に—」(スポーツ史学会会報『ひすぼ』68号)	2007.11
池内 靖子	著書(単著)	『女優の誕生と終焉—パフォーマンスとジェンダー—』(平凡社) 全351頁	2008.3
石倉 康次	論文(単著)	「戦後日本の社会福祉と部落問題解決過程との交点をめぐって」(『部落問題研究』180号, 社団法人部落問題研究所) 46-67頁	2007.4
	論文(単著)	「高齢者ケア—認知症ケアにおける介護者視点から本人視点への転換」(植田他編『社会福祉方法原論の展開』, 高菅出版) 20-35頁	2007.5
	論文(単著)	「構造改革のもとでの社会福祉法人のあり方」(『保育情報』368号, 全国保育団体連絡会) 2-14頁	2007.7
	研究ノート(単著)	「障害者(児)福祉事業に関わる事業者調査の結果」(『新しい公私関係の構築をめざす「準市場」化時代の非営利福祉事業体と公共部門の課題」, (平成17年度～19年度科学研究費補助金基盤研究(C) 研究成果報告書) 研究代表者 鈴木勉) 128-187頁	2008.5
	その他(単著)	「社会福祉事業の場の構造転換と新たなルール作りの課題」(『福祉の公的責任と社会福祉法人等のあり方に関する「中間のまとめ」』, 社会福祉施設経営者同友会) 21-29頁	2008.1
	学会発表(単独・国内)	「住民自治, 非営利・協働と社会福祉」(第7回日本社会福祉学会政策理論フォーラム, 日本社会福祉学会, 於: 西九州大学)	2008.3
	論文(単著)	「子どもの観を変える運動文化の学習—同志会実践の事実から—」(『たのしい体育・スポーツ』No.204, 学校体育研究同志会) 28-33頁	2007.6

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
石田 智巳	論文(単著)	「ボール運動の授業の難しさと私たちの指導—『上手い, 下手』関係の組織を中心として—」(『たのしい体育・スポーツ』No.206, 学校体育研究同志会) 30-33頁	2007. 8
	論文(単著)	「子ども同士の学び合いを育むためには, どうすればよいですか」(『体育科教育』55巻12号, 大修館書店) 64-65頁	2007.12
	論文(単著)	「『子どものよろこびを高める技術の指導』の今日的課題」(『たのしい体育・スポーツ』No.213, 学校体育研究同志会) 40-41頁	2008. 3
	論文(単著)	「運動文化論と『身体能力』」(『体育科教育学研究』24巻1号, 日本体育科教育学会) 19-24頁	2008. 3
	学会発表 (単独)	「運動文化論と『身体能力』」(日本体育科教育学会第13回大会(於:早稲田大学))	2007. 6 .23
伊東 寿泰	その他 (項目執筆)	『聖書学用語辞典』(日本基督教団出版局) 161, 210-211, 278-279, 289, 334, 399頁	2008. 3
	研究発表 (単独・国内)	「翻訳の実際: 良い翻訳をめざして」(APU言語文化インスティテュート主催セミナー, 於立命館APU)	2007.11
	学会発表 (単独・国内)	「Pragmatic analysis on Biblical texts: A case of Chapter 9 of John's Gospel」(第10回日本語用論学会世界大会, 於: 関西外語大学)	2007.12
乾 亨	論文(単著)	「子供の発達と住居47: 子供たちはユーコートからなにをうけとったか」(『住宅会議』70号) 29-31頁	2007. 6
	論文(単著)	「住民の力で暴力団を追い出したまち〈真野〉」(『季刊まちづくり』17, 学芸出版社) 112-118頁	2007.12
文 楚雄	論文(単著)	「『生活と文化』—流行り謡から見た現代中国の生活—」(『現代中国の生活変動』第7章, 飯田哲也・坪井健共編, 時潮社) 178-202頁	2007. 4
	学会発表 (単独・国外)	「白川静先生の漢字研究の理論及び辞書編集の実践」(中国辞書学会・電子辞書専門委員会第3回年次大会, 於: 中国・魯東大学)	2007. 8 .23
瓜生 吉則	論文(単著)	「『女子アナ』以前 あるいは“一九八〇年代/フジテレビ的なるもの”の下部構造—露木茂氏インタビューから」(長谷正人・太田省一編著『テレビだヨ! 全員集合』, 青弓社) 191-210頁	2007.11
漆原 良	論文(共著)	「反復経頭蓋磁気刺激の位相に関する生理的研究—体性感覚誘発電位を用いて—」(『臨床神経生理学』35巻6号, 日本臨床神経生理学会) 473-478頁	2007.12
	学会発表 (共同・国内)	「体幹ジストニアと鑑別困難であった stiff-person 症候群の1例」(『臨床神経学』47巻4号, 第48回日本神経学会総会, 於: 名古屋) 180頁	2007. 5
	学会発表 (共同・国内)	「DBS用視床埋込電極から記録した正中神経 SEP の中枢性感覚 sensory gating」(『臨床神経生理学』35巻5号, 第37回日本臨床神経生理学会, 於: 宇都宮) 375-376頁	2007.11
	学会発表 (共同・国内)	「対側運動野における反復経頭蓋磁気刺激による体性感覚誘発電位の変動」(『臨床神経生理学』35巻5号, 第37回日本臨床神経生理学会, 於: 宇都宮) 380頁	2007.11
	学会発表 (共同・国内)	「反復経頭蓋磁気刺激の刺激特性の違いが体性感覚誘発電位と脳血流に及ぼす影響」(『臨床神経生理学』35巻5号, 第37回日本臨床神経生理学会, 於: 宇都宮) 382頁	2007.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
漆原 良	学会発表 (共同・国内)	「超低頻度および低頻度反復経頭蓋反復磁気刺激が書痙患者の体性感覚誘発電位に及ぼす影響」(『臨床神経生理学』35巻5号, 第37回日本臨床神経生理学会, 於: 宇都宮) 382頁	2007.11
	学会発表 (共同・国内)	「視覚誘発電位検査にて異常を認めた前兆を伴う片頭痛の1例」(『日本頭痛学会誌』34巻1号, 第35回日本頭痛学会総会, 於: 東京) 74頁	2007.11
遠藤 保子	研究ノート (共著)	「今日のアフリカの社会と舞踊の記録・保存・伝承—ケニアの舞踊とモーションキャプチャー」(『アート・リサーチ』8号, 立命館大学アート・リサーチセンター) 15-24頁	2008.3
	調査報告 (共著)	「今日のアフリカにおける身体芸術と社会—モーションキャプチャーを利用した学際研究」(2004~2007年度文部科学省科学研究費補助金研究報告書基盤研究C) 全217頁	2008.3
	その他(単独)	「村のダンスと舞踊団」(国立民族学博物館編『月刊みんぱく』5月号, 国立民族学博物館) 4頁	2007.5
	学会発表 (共同)	「モーションキャプチャーを利用した舞踊動作のデジタルアーカイブ化研究—ナイジェリアを事例として—」(日本スポーツ人類学会第9回大会, 於: 流通経済大学(新松戸キャンパス))	2008.3.29
	学会コメンテータ	田中葵「社会における舞踊の鑑賞に関する研究—劇場とメディアにおける舞踊享受を中心に—」(舞踊学会第11回定例研究会, 於: 彩の国さいたま芸術劇場)	2008.3.2
	学会発表 (国際シンポジウム)	‘African Society of Today and Kenyan Dance at Digital Frontiers at’ (Ritsumaikan Univ. International Symposium Human Body Motion Analysis with Motion Capture)	2007.12.21
	学会発表 (共同)	‘The Body and Topos (Space): Case Study of a Nigerian Dance (Abame Wrestling Dance of Igbide People)’ (第59回舞踊学会大会学会委嘱研究発表, 倉敷芸文館202号室)	2007.12.2
	学会発表 (単独)	‘Dances from Japan and Kenya: Utilizing Technology of Motion Capture’ (レクチャー & デモンストレーション, Jomo Kenyatta Univ. of Agriculture and Technology)	2007.8.17
大谷いづみ	論文(単著)	「安楽な死, 尊厳ある死—の遙か手前で」(『現代思想』36巻2号, 青土社) 174-183頁	2008.2
	研究発表 (単独・国内)	「『尊厳死』言説の誕生とキリスト教の関わり」(京都NCC生命倫理研究会, 於: 京都NCC宗教研究所)	2007.9.22
	研究発表 (単独・国内)	「安楽死・尊厳死」論を読み直す(第2回難病と倫理研究会, 於: キャンパスプラザ京都)	2008.2.2
	シンポジウム 報告(単独)	「『よく生きる』ことと『よく死ぬ』こと—「尊厳死」研究と「いのちの教育」の狭間で」(第12回日本緩和医療学会シンポジウム2「緩和医療を支える倫理と法」, 於: 岡山コンベンションセンター)	2007.6.23
	シンポジウム 報告(単独)	「『尊厳ある死』という思想の生成と『いのちの教育』」(第28回SGRAフォーラム in 軽井沢「いのちの尊厳と宗教の役割」, 於: 鹿島建設軽井沢研修センター)	2007.7.21
	講演	「『よく死ぬ』ことと『よく生きる』ことの「間」—「尊厳死」言説をめぐって」(立命館大学土曜講座「生存学」の創成—障老病異と共に暮らす世界へ, 立命館大学)	2007.4.14

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
大谷いづみ	講 演	「『問い』を立て直す―「生と死の自己決定」をめぐる」(第9回福祉教育研修講座 社団法人日本社会福祉教育学校連盟, 於: 法政大学市ヶ谷キャンパス)	2008.1.12
	講 演	「医療崩壊と医療倫理―〈間 (あいだ) の生〉のために」(石巻赤十字病院職員研修会)	2008.2.15
大野 威	論文(単著)	「アメリカにおける大学の変化と TA の組織化」(『労働社会学研究』9号, 東信堂) 1-33頁	2008.3
	調査報告 (監修)	「平成19年度 人材確保及び育成に関するプログラム (厚生労働省委託 2007年問題対応 U・I ターン事業)」(岡山県中小企業団体中央会) 全28頁	2007.12
岡田 まり	論文(単独)	「根拠に基づくソーシャルワーク実践を旨として―精神障害者の生活支援についての研究を通して―」(『社会福祉学』48巻1号, 日本社会福祉学会) 179-181頁	2007.5
	学会発表 (共同・国内)	「地域包括支援センターにおける総合相談・権利擁護業務の評価に関する研究(1)―地域包括支援センター社会福祉士職 業務実態調査の結果から―」(日本社会福祉学会第55回全国大会, 於: 大阪市立大学)	2007.9.22 -23
	学会発表 (共同・国内)	「地域包括支援センターにおける総合相談・権利擁護業務の評価に関する研究(2)―従事する社会福祉士の力量向上を目的とした「評価シート」の開発―」(日本社会福祉学会第55回全国大会, 於: 大阪市立大学)	2007.9.22 -23
	学会発表 (共同・国内)	「ACT 支援提供に重要なチームの姿勢」(精神障害者リハビリテーション学会第15回名古屋大会, 於: 名古屋市公会堂・日本福祉大学名古屋キャンパス)	2007.11.22 -23
	学会発表 (共同・国内)	「精神科訪問活動における統合失調症者の日常生活機能に関する実態報告―ACT-Kの活動を通して―」(同上)	2007.11.22 -23
小川 栄二	論文(単著)	「自由記入欄の回答から」(『制度施行から1年…予防訪問介護サービス利用者316人の実態調査第1次報告』, 北海道民主医療機関連合会) 10-24頁	2007.6
	論文(単著)	「ホームヘルプにおける『生活援助』サービス提供の原則と本質」(『訪問介護サービス』, 日総研出版) 4-9頁	2007.7
	論文(共著)	「『予防』という名のホームヘルプ利用制限を検証する」(橘晃弘『賃金と社会保障』第145号) 21-31頁	2007.9
	論文(単著)	「要援助高齢者の援助拒否・社会的孤立・潜在化問題第二次調査経過報告」(『高齢者の援助拒否・孤立・潜在化問題研究会・第二期研究報告書』) 125-178頁	2008.3
奥村 信幸	論文(単著)	「メディアを監視する社会的な必要―米国 NGO の理念と方法論から学ぶ」(『立命館産業社会学論集』43巻4号) 22頁	2008.3
	学会発表 (単独)	「国をあげてコンテンツを売ることの問題点」(ICPC (情報通信政策研究会)「コンテンツ政策とそれを支える制度の実態」, 於: 国際大学 GLOCOM (東京・港区六本木))	2007.5.26
	学会発表 (単独)	「日本の政治報道とテレビの影響」(PHP 総合研究所「政治とメディア研究会」, 於: PHP 総合研究所 (東京・千代田区麴町))	2007.6.18
	学会発表 (単独)	「メディアと市民のリテラシー」(三鷹市民大学「市民力としての教養」, 於: 三鷹市民教育会館 (東京・三鷹市))	2007.10.13

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
小澤 亘	論文(単著)	「市民教育とボランティア」(加藤哲郎・国広敏文編『グローバル化時代の政治学』, 法律文化社) 215-236頁	2008. 3
	論文(単著)	「日本における青少年ボランティア政策の現在」(立命館大学ボランティアセンター主催国際シンポジウム報告書『ボランティアリズムと教育—カナダ, 韓国, そして, 日本』, 立命館大学ボランティアセンター) 60-74頁	2008. 3
	その他(単著)	「日本におけるボランティア政策の現在」(韓国語)(『青少年ボランティア海外政策事例集Ⅱ 海外青少年ボランティア活動に関する政策動向—イギリス・日本の青少年ボランティア政策, 韓国青少年振興センター) 37-64頁	2007.12
	その他(編著)	「立命館大学ボランティアセンター主催国際シンポジウム報告書『ボランティアリズムと教育—カナダ, 韓国, そして, 日本』」(注記: 2008年1月11日に実施した国際シンポジウムの報告書(小澤責任編集), 立命館大学ボランティアセンター) 全77頁	2008. 3
	その他(単著)	報告概要「ボランティア文化の国際比較—日・韓・加3カ国の大学生・高校生調査から」(立命館大学ボランティアセンター主催国際シンポジウム報告書『ボランティアリズムと教育—カナダ, 韓国, そして, 日本』, 立命館大学ボランティアセンター) 11-14頁	2008. 3
小原 豊	論文(単著)	「IT教育協力に関する諸課題と改善へのパースペクティブ」(『鳴門教育大学国際教育協力研究』2巻, 鳴門教育大学) 33-37頁	2007. 5
	論文(単著)	「算数・数学教育における異文化理解に関する考察」(日本数学教育学会誌『算数教育』89巻8月号, 日本数学教育学会) 20-28頁	2007. 8
	学会発表 (単独・国内)	「アジア太平洋地域における数学教育協力の動向」(第6回国際教育発展・協力研究会, 於: 京都女子大学)	2007. 6
	学会発表 (単独・国内)	「教授学的変換に基づく算数・数学科の教材開発」(2007年度鳥取数学教育研究会, 於: 鳥取大学)	2007. 8
	学会発表 (単独・国内)	「文科系大学生のもつ数学観の特徴について」(第42回近畿数学教育学会例会, 於: 滋賀大学)	2007. 9
	学会発表 (単独・国内)	「熟練教師による指導法と関心・意欲・態度の評価法の一体化について」(『日本教育実践学会研究大会論文集10』, 日本教育実践学会) 155-156頁	2007.11
	学会発表 (共同・国内)	「小学校教員養成における子ども社会学の意義に関する考察—立命館メソッドの開発に向けて—」(『日本教育実践学会研究大会論文集10』, 日本教育実践学会) 19-20頁	2007.11
	学会発表 (共同・国内)	「The Mountain-Climbing Learning Method to Activate Communicative Ability in Mathematics Classroom」(APEC-TSUKUBA International Conference, 於: 金沢大学)	2007.12
	学会発表 (単独・国外)	「How to Use the Lesson Evaluation Date」(Khon Kaen International Lesson Study Work Shop, Khon Kaen City, Thai)	2008. 2
角田 将士	著書(共著)	『社会科 間違いやすい・紛らわしい用語 指導辞典』(分担執筆, 明治図書) p.220, 225, 229, 246, 275, 294, 295, 299	2007.11
	論文(単著)	「歴史教科書問題の脱構築—社会科教育学的視点からのアプローチ—」(『立命館平和研究』9号立命館大学国際平和ミュージアム) 1-10頁	2008. 3

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
角田 将士	その他(単著)	『『戦争』や『平和』を社会科授業でどう扱うべきか』(『立命館大学国際平和ミュージアムだより』VOL.15-1, 立命館大学国際平和ミュージアム) 8-9頁	2007.10
	その他(単著)	『知識活用型学力とは何か—と聞かれたら 民主主義を視点に社会的事象を批判的に理解できる力』(『社会科教育』No.582, 明治図書) 14-15頁	2007.11
	その他(単著)	『授業構成能力の育成を中核にした教員養成教育—社会科を事例として』(京都地区私立大学教職課程研究連絡協議会『ニュース・レター』No.27) 11-12頁	2008.3
川口 晋一	論文(単著)	『シカゴ市公園研究の問題と視角』(『立命館産業社会論集』43巻4号) 47-67頁	2008.3
草深 直臣	論文(単著)	『特待生, その公正・公平性と公開性』(『たのしい体育・スポーツ』2007年12月号)	2007.12
	解説(単著)	『プロ・スポーツマンの肖像権』(小田進午他編集『スポーツ科学事典』所収, 紀伊国屋書店)	2007.4
國廣 敏文	著書(共編著)	『グローバル化時代の政治学』(加藤哲郎・國廣敏文編, 法律文化社) I-IV, 259-260頁	2008.3
小泉 秀昭	論文(単著)	『ブランド構築: ブランドの育成強化とCSR』(川越憲治・疋田聰編著『広告とCSR』, 生産性出版) 77-94頁	2007.11
	学会発表 (単独・国内)	『広告思想について』(日本広告学会第38回全国大会, 於: メルパルク京都)	2007.12
斎藤 真緒	著書(共著)	『男性介護者白書—家族介護者支援への提言』(かもがわ出版) 全198頁	2007.9
	論文(共著)	『家事にうろたえ, 孤立に悩む夫たち, 息子たち—全国調査データが示した“現実”』(『論座』8月号, 朝日新聞社) 261-268頁	2007.8
	論文(単著)	『大学生向けデートDV予防プログラム—「恋愛カフェ」の取り組み』(『家族と健康』644号, 日本家族計画協会) 4-5頁	2007.11
	学会発表 (単独・国内)	『男が介護するということ—家族・ケア・ジェンダーのインターフェイス』(日本家族社会学会, 札幌学院大学)	2007.9
	学会発表 (単独・国内)	『大学生向けデートDV予防プログラム—「恋愛カフェ」—の取り組み』(思春期保健相談士学術大会, 自治医科大学)	2007.6
坂本 利子	報告書(共著)	『ロンドンの多民族多文化コミュニティにおける地域再生—北ウエストミンスターのNPO法人, 「パディントン開発基金」とローカル・パートナーシップ—』(科学研究費報告書) 196-237頁	2008.3
崎山 治男	論文(単著)	『感情社会学という暴力: 生きられた感情経験をめぐって』(『立命館大学産業社会論集』43巻3号) 25-39頁	2007.11
	論文(単著)	『感情公共性という構想とその方途』(『ジェンダー, 福祉, 環境, および多元主義に関する公共性の社会学的総合研究』科研費報告書(基盤研究A・研究代表者: 上野千鶴子 課題番号16203030)) 29-40頁	2008.3
	学会発表 (単独招待講演)	『社会関係としての調査・社会調査という関係: ラポール・実践・関係性』(関西学院大学COEシンポジウム「社会調査と学際性」, 於: 関西学院大学)	2007.5
	学会発表 (単独・国内)	『心理主義化と社会批判の可能性』(日本社会学会第80回大会, 於: 関東学院大学)	2007.11

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
佐々木嬉代三	学会発表 (単独・国内)	「「公共」から「交響」へ—生存の可能性に向けて—」(日本社会病理学会第23回大会)	2007. 9
笹野恵理子	論文(共著)	“The Education Reform in Japan after World War 2” (2007 Yanbian International convention of Sports science, Korea Sports Research) pp.3-10	2007. 9
	論文(共著)	「高校生の部活動にみる学校音楽文化形成—女子生徒の音楽活動を中心に—」(『学校音楽教育研究』12巻, 日本学校音楽教育実践学会) 55-60頁	2008. 3
	学会発表 (共同・国内)	「高校生の部活動にみる学校音楽文化形成—女性生徒の音楽活動を中心に—」(日本学校音楽教育実践学会第12回大会, 於:くらしき作陽大学, 日本学校音楽教育実践学会)	2007. 8.22
	学会発表 (単独・国外・招待発表)	“The Education Reform in Japan after World War 2” (2007 Yanbian International convention of Sports science (China), Korea Sports Research)	2007. 9.28
	学会発表 (単独・国内)	「教師の『語り』にみる学校音楽—学校音楽カリキュラムの再構築—」(日本教育方法学会第43回大会, 於:京都大学, 日本教育方法学会)	2007. 9.30
	学会発表 (単独・国内)	「音楽教育研究において潜在的カリキュラム研究とは何か(3)—学校音楽文化研究への視角—」(日本音楽教育学会第38回大会, 於:岐阜大学, 日本音楽教育学会)	2007.11.10
	受 賞 (Excellent award)	上掲招待発表 “The Education Reform in Japan after World War 2” (2007 Yanbian International convention of Sports science (China), Yanbian Univ. & Korea Sports Research)	2007. 9.30
佐藤 春吉	訳書(単訳)	マーガレット・S. アーチャー著『実在論的社会理論—形態生成論アプローチ—』(青木書店) 全541頁	2007. 5
	論文(単著)	「存在論からの社会科学の刷新—批判的実在論を参照点にして—」(『唯物論と現代』No.40, 文理閣) 20頁	2008. 3
	学会発表 (シンポジウム報告)	21世紀の唯物論の課題「存在論からの社会科学の刷新—批判的実在論を参照点にして—」(『唯物論と現代』No.40, 文理閣) 20	2008. 3.30
篠田 武司	著書(共編著)	『市民の社会経済学』(八千代書房) 全170頁	2007. 4
	論文(単著)	「スウェーデン・デンマーク間の国境を越える地域開発」(『EU 経済統合の地域的次元』, ミネルヴァ書房) 30-48頁	2007.11
	論文(単著)	“Polarizing Society and Quality of Life in Japan” (<i>Quality of Life & Happiness of People ? — In Japan and The Netherlands</i> , NIDO Encounters Series Volume 1, KIT Publishers, Amsterdam) pp.112-122	2007
芝田 英昭	論文(単独)	「ニュージーランド新年金制度『KiwiSaver』の導入が意味するもの」(『賃金と社会保障』No.1453, 旬報社) 4-22頁	2007.11
	論文(単独)	「ニュージーランド新年金制度『KiwiSaver』の導入は何を意味するのか(上)」(『民医連医療』No.424, 全日本民主医療機関連合会) 50-54頁	2007.12
	論文(単独)	「ニュージーランド新年金制度『KiwiSaver』の導入は何を意味するのか(下)」(『民医連医療』No.425, 全日本民主医療機関連合会) 44-51頁	2008. 1
	調査報告 (単独, 生出演)	「「救える命」をどう守るか・・問われる国民健康保険制度・・」(『ふるさと発』, NHK 広島放送局) 19:30~20:00	2007.12.07
	調査報告 (単独, 生出演)	「命が守れない・・国民健康保険滞納急増の裏で・・」(『クローズアップ現代』, 日本放送協会 (NHK)) 19:30~20:00	2008. 1.21

名前	種別	書名、論文名等、(掲載書名・誌名(巻号)、出版社・発行所)、頁	発行年月
芝田 英昭	その他(単著)	「社会保障の発展と平和のために・・・日本国憲法第25条(生存権)の意義」(『しんぶん赤旗』, 日本共産党中央委員会)	2007.5.24
	その他(単著)	「ニュージーランドの実験・・・忍び寄る年金市場化」(同上)	2007.11.8
	その他(単著)	「命が切り捨てられる・・・「国民健康保険」崩壊の危機」(同上)	2008.2.1
杉本通百則	論文(単著)	『日本の自動車リサイクルの構造的限界—耐久消費財のリサイクル成立の条件—』(博士(商学)学位論文, 大阪市立大学) 全110頁	2008.3
高垣忠一郎	論文(単著)	「思春期の「第二の誕生」を困難にするもの—「不登校」「ひきこもり」をめぐる—」(『教育』2007年12月号, 国土社) 42-49頁	2007.12
高木 正朗	著書(編著)	『19～20世紀東北日本の前近代型出生・生存・移動・死亡パターンの歴史人口学的研究』(平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究A)研究成果報告書, 立命館大学) 全478頁+vii	2007.6
	著書(編著)	『18・19世紀の人口変動と地域・村・家族—歴史人口学の課題と方法—』(古今書院) 全300頁+viii	2008.3
	学会発表 (単独・国内)	「仙台藩村落の人口変動と「共同性」—土地所有権の移動からみた—」(『日本村落研究学会研究通信』No.220, 第55回大会テーマセッション報告2007.12.2, 於: 鹿児島県大隈町中央公民館) 25-26頁	2007.12
高島 正晴	論文(単著)	「グラムシアン・グローバリズムにみるグラムシの援用とヘゲモニー分析」(『グラムシ没後70周年記念シンポジウム文書報告集』, グラムシ没後70周年記念シンポジウム実行委員会編, いりす) 7-11頁	2007.11
	論文(単著)	「グラムシアン・グローバリズムの最近の研究状況」(『季報 唯物論研究』101号) 52-61頁	2007.8
	論文(単著)	「山口県の2006年度国際インバウンド観光政策について—姉妹都市・友好都市交流を活用したモニターツアーとグッドウィル・ガイド研修会を中心に—」(『産業文化研究所所報』17号) 3-13頁	2008.3
	研究発表 (単独・国内)	「東アジア経済交流推進機構と関門地域—物流分野の取り組み—」(関門地域共同研究会・成果報告会, 於: アジア太平洋インポートマート)	2007.7
	研究発表 (単独・国内)	「北長門知恵の輪ネットワーク(山口県)」(中国・地域づくりフォーラム2007, 於: 広島市)	2007.11
	研究発表 (単独・国内)	「グラムシアン・グローバリズムにみるグラムシの援用とヘゲモニー分析」(グラムシ没後70周年記念シンポジウム, 於: 明治大学)	2007.12
竹内 謙影	論文(単著)	「女性に地図は読めないのか」(『GISと空間認知—進化する地図の科学』, 古今書院) 127-140頁	2008.3
	学会発表 (共同・国内)	「自閉症スペクトラム児の特別なニーズと発達課題(1)—就学前後を対象とした分析—」(日本発達心理学会第19回大会準備委員会, 於: 追手門学院大学)	2008.3
	学会発表 (共同・国内)	「自閉症スペクトラム児の特別なニーズと発達課題(2)—学童低学年を対象とした分析—」(日本発達心理学会第19回大会準備委員会, 於: 追手門学院大学)	2008.3
	学会発表 (共同・国内)	「自閉症スペクトラム児の特別なニーズと発達課題(3)—学童高学年を対象とした分析—」(日本発達心理学会第19回大会準備委員会, 於: 追手門学院大学)	2008.3
竹濱 朝美	論文(単著)	「気候変動研究とサイエンス・ジャーナリズムの役割: 英国マス・メディアが伝える Climate Change」(『日本の科学者』42巻4月号) 30-35頁	2007.4

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
竹濱 朝美	論文(単著)	「温室効果ガス排出削減の道すじ: 世界排出量が減少傾向に転じるべき期限とその緊急性」(『日本の科学者』42巻12月号) 10-15頁	2007.12
	学会発表 (単独・国内)	「気候変動の現状と消費部門への再生可能エネルギー促進」(日本消費経済学会32回大会, 於: 中央学院大学)	2007. 5
	学会発表 (単独・国内)	「ドイツ EEG 法による太陽光発電の普及と太陽光電池産業の拡大」(日本流通学会第21回大会, 日本消費経済学会西日本大会, 於: 酪農学園大学)	2007.10
津田 正夫	論文(単著)	「『鉍毒に消えた谷中』解説」(埴和也『鉍毒に消えた谷中 廃村100年』, 随想舎) 272-276頁	2008. 1
	研究ノート (単著)	「新しい奄美をめざすコミュニティ FM「あまみエフエム」〜〇局目のNPO放送局〜」(『新・調査情報』No56, 07・5月号, 東京放送) 70-73頁	2007. 5
	学会発表 (講演)	「CATVのパブリック・アクセス・チャンネル戦略」(デジタル&ブロードキャスト戦略特別セミナー, 於: 東京, SSK セミナールーム)	2007. 5.28
	学会発表 (講演)	「マスメディアと市民メディアの接点」(マスコミ倫理懇談会全国協議会第51回大会報道分科会, 於: 福井市アオッサ)	2007. 9.27
	学会発表 (テレビ出演)	「パブリック・アクセスとマスメディア」(『週刊フジテレビ批評』, フジテレビ) 30分	2007.10.27
津上 正敏	著書(単著)	『ボランティアの臨床社会学Ⅱ—チャレンジドケースの臨床研究—』(立命館大学人間科学研究所) 全167頁	2008. 2
	著書(共著)	『男性介護者白書—家族介護者支援への提言—』(かもがわ出版) 全198頁	2007. 9
	論文(共著)	「家事にうろたえ孤独に悩む夫たち息子たち—全国調査データが示した“現実”」(『論座通巻』147号, 朝日新聞社) 261-268頁	2007. 8
	論文(単著)	「うつろう家族 夫, 息子—増える男性介護者」(『月刊ケアマネジメント』Vol8, No12, 環境新聞社) 14-18頁	2007.12
	論文(単著)	「地域活性化ボランティア教育プログラムの深化と発展— Reflective Approach の可能性—」(『大学時報』No.318, 日本私立大学連盟) 38-45頁	2008. 1
	調査報告 (共著)	「自立支援法の児童デイサービス事業への影響と障害児の放課後保障の課題」(『立命館産業社会論集』43巻1号) 123-144頁	2007. 6
	筒井 淳也	著書(共著)	『入門: グローバル化時代の新しい社会学』(西原和久・保坂稔(編), 新泉社) 52-55, 56-59, 236-237頁
著書(単著)	『親密性の社会学: 縮小する家族のゆくえ』(世界思想社) 全239頁	2008. 1	
論文(単著)	「学生生活の充実度と携帯電話保有: 1991年からの趨勢の計量分析」(『立命館大学産業社会論集』43巻2号) 103-112頁	2007. 9	
論文(単著)	「「未婚」の国際比較分析: 結婚についての意識のズレの様相」(『SSJDA リサーチペーパーシリーズ』39号) 59-73頁	2008. 3	
論文(単著)	「日本における配偶者選択方法の決定要因: JGSS-2006による分析」(『日本版 General Social Surveys 研究論文集: JGSS で見た日本人の意識と行動』7号) 25-32頁	2008. 3	
学会発表 (共同・国外)	「An Alternate Model for the Comparative Analysis of the Mate-Selection Process」(EASS (East Asian Social Surveys) General Meeting, 於: Hong Kong University of Science and Technology)	2007. 7	

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
筒井 淳也	学会発表 (単独・国内)	「配偶者の選択方法の趨勢と帰結：JGSS-2006による分析」(第17回日本家族社会学会大会, 於：札幌学院大学)	2007.9
	学会発表 (単独・国内)	「社会学と経済学における「社会的ネットワーク」：その橋渡しから見えてくるもの」(第80回日本社会学会, 於：関東学院大学)	2007.11
	学会発表 (単独・国内)	「Weakening Family Networks in the Age of Weakening Public Welfare: Vulnerability in the East Asian Countries」(International Symposium: "Globalization and Nation-States", 於：立命館大学)	2008.3
中井 美樹	論文(単著)	「職業分離と職場における権限へのアクセス—ライフコースパースペクティブによる職業キャリアの分析—」(中井美樹・杉野勇編『ライフコース・ライフスタイルから見た社会階層』2005年SSM調査シリーズ 9, 2005年SSM調査研究会) 101-120頁	2008.3
	論文(単著)	「階層化, ジェンダー化された消費ライフスタイルと文化資本」(菅野剛編『階層と生活格差』2005年SSM調査シリーズ 10, 2005年SSM調査研究会) 1-28頁	2008.3
	論文(単著)	「子育ての価値観と実践の階層差—公共性の視点から—」(片岡栄美編『子どものしつけと教育戦略の社会学的研究—階層性・公共性・プライヴァティゼーション』) 129-137頁	2008.3
	論文(単著)	「社会階層, ライフコースと子育ての負担感—経済ストレスと育児ストレス—」(片岡栄美編『子どものしつけと教育戦略の社会学的研究—階層性・公共性・プライヴァティゼーション』) 33-52頁	2008.3
長澤 克重	著 書 (分担執筆)	『よくわかる統計学 I 基礎編』(金子治平 他著, ミネルヴァ書房) 34-43, 114-135頁	2007.10
	著 書 (分担執筆)	『よくわかる統計学 II 経済統計編』(御園謙吉 他著, ミネルヴァ書房) 28-37, 104-113頁	2007.10
	著 書 (分担執筆)	『18・19世紀の人口変動と地域・村・家族—歴史人口学の課題と方法—』(高木正朗編, 古今書院) 177-195頁	2008.3
	論文(単著)	「江戸末期の狐塚寺村の人口構造と平均余命」(『19～20世紀東北日本の前近代型出生・生存・移動・死亡パターンの歴史人口学的研究』(平成15年度～平成18年度科学研究費補助金(基盤研究(A))成果報告書(研究代表者：高木正朗, 立命館大学産業社会学部教授) 195-206頁	2007.6
中西 仁	論文(単著)	「同和教育の具体的な検証を—子どもの自立を阻むもの」(『こべる』No.172, こべる刊行会, 阿吽社) 1-6頁	2007.7
	論文(単著)	「公共って?」(『社会科教育』No.578, 明治図書) 58-59頁	2007.7
	論文(単著)	「『公共』の教材化・授業化」(『社会科教育』No.583, 明治図書) 66-67頁	2007.12
	論文(単著)	「学習障害のある児童・生徒と社会科授業」(『京教社会』No.12, 京都教育大学社会系教育研究会) 3-12頁	2008.3
	学会発表 (単独・国内)	「時代の特徴を考える中学校歴史学習—関東大震災と阪神淡路大震災」(近現代史教材授業づくり研究会第9回大会, 於：東大阪市立市民会館)	
永橋 為介	論文(共著)	「『対話の力』が『場所の力』を呼び覚ます—『場所の力』を引き出すデザインはいかにして可能か?」(『こころのたねとして 記憶と社会をつなぐアートプロジェクト』, ココロム文庫 ISBN978-4-9904096-0-9) 206-230頁	2008.4
	論文(単著)	「環境教育の実践」(『住宅会議』70号, 日本住宅会議) 17-21頁	

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
永橋 為介	学会発表 (単独・国外)	“How to create beautiful partnership to make sustainable community? —a case study of making local agenda 21 in the difficult of consolidation of smaller municipalities—” (Pacific Rim Community Design Network, the 6th Conference, Quanzhou, China, http://courses.washington.edu/quanzhou/pacrim/) pp.18-21	2007. 6
仲間 裕子	論文(単著)	「林悝嶽の風景画における本質的なものの探究—西洋近代の風景描写との比較から—」(International Symposium on Hsin-Yueh LIN and Contemporary Art Trend, Council for Cultural Affairs, Taiwan/National, Taiwan Museum of Fine Arts) pp.28-42	2007.10
	論文(単著)	「ツェムリンスキーの時代の美術—ウィーン分離派からフォーゲラーまで—」(『こびと〜王女様の誕生日』, 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール) 15-20頁	2007.11
	学会発表 (単独・国内)	「ツェムリンスキーの時代の美術—ウィーン分離派からフォーゲラーまで—」(シンポジウム「ツェムリンスキーの音楽とその時代」, 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール)	2007. 4
	学会発表 (単独・国内)	“Aesthetics of Japan as Self-References in Contemporary Art” (Asian Society of Arts, 立命館大学)	2007. 8
	学会発表 (単独・国内)	「ドイツ美術におけるロマン主義の現在」(「ドイツロマン主義と現代美術」, シンポジウム「ドイツ・ロマン主義の〈現在〉—美術, 音楽, 思想から—」, 国立新美術館)	2007. 9
	学会発表 (単独・国外)	「林悝嶽の風景画における本質的なものの探究—西洋近代の風景描写との比較から—」(International Symposium on Hsin-Yueh LIN and Contemporary Art Trend, National Taiwan Museum of Fine Arts)	2007.10
中村 正	論文(単著)	「社会臨床的アプローチの考え方」(天賀谷隆ほか編『(実践精神科看護テキスト) 家族関係・障がい者福祉』精神看護出版) 146-165頁	2007. 5
	論文(単著)	「男らしいコミュニケーションにそくしてすすめる変化のための対話—男性性とジェンダーの視点からの社会臨床へ—」(『家族療法研究』24巻2号) 8-11頁	2007. 9
	論文(単著)	「自立と孤立をめぐる社会臨床学的考察—虐待する父親たちのグループワークをとおして—」(『そだちと臨床』4号, 明石書店) 126-129頁	2007.10
	論文(単著)	「暴力と男性(性)をめぐる心理教育プログラム—社会臨床的アプローチと心理社会的な視点—」(『現代のエスプリ』485号, 至文堂) 1-12頁	2007.12
	論文(単著)	「役割モデルを提供できなくなった現代の父親たち」(『児童心理』874号, 金子書房) 64-69頁	2007. 3
原尻 英樹	論文(単著)	「フィールドワークという学びの実践: 多文化間精神医学への貢献」(『こころと文化』6巻2号, 多文化間精神医学会) 117-124頁	2007. 9
	論文(単著)	「韓流に乗っても乗らなくても日本: ひとつの選択肢としての日本生活」(『アジア遊学』No.104, 勉誠出版) 12-24頁	2007.10
	論文(単著)	「海域世界の宗教的実践の意味: 韓国・済州島と日本・岐岐島の事例」(Asian Arts Society Vol.2 January 2008 (原文韓国語「해역 세계의 종교적 실천의 의미: 한국 제주도와 일본 이키섬의 사례」), Asian Arts Society (韓国)) pp.1-12	2008. 1

名 前	種 別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名 (巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
原尻 英樹	論文(単著)	“Globalization, State Interest, and Cultural Capital: Korean Relocation to Japan since 1910” (Transnational Migration in East Asia, edited by Shinji Yamashita, Makito Minami, David Haines and Jerry S. Eades, Senri Ethnological Reports 77, National Museum of Ethnology, Osaka) pp.29-38	2008.3.31
東 自由里	論文(単著)	“The Kokoro Education: Landscaping the Hearts and Minds of Japanese” <i>Social Education in Asia: Critical Issues and Multiple Perspectives</i> (著書), (Information Age Publishing, Charlotte, USA) pp.39-56	2007.12
	その他(単著)	「現代のことば：プラハのウルトラマン」(『京都新聞』, 夕刊) 2頁	2007.4.26
	その他(単著)	「現代のことば：アインシュタインのジョーク」(『同上』, 夕刊) 2頁	2007.6.20
	その他(単著)	「現代のことば：男をかえせ：ローゼンシュトララーセの女たち」(『同上』, 夕刊) 2頁	2007.8.22
	その他(単著)	「現代のことば：アテンション・プリーズ」(『同上』, 夕刊) 2頁	2007.10.23
	その他(単著)	「現代のことば：ガールパワー」(『同上』, 夕刊) 2頁	2007.12.20
	その他(単著)	「現代のことば：“ご一行様”にご用心」(『同上』, 夕刊) 2頁	2008.2.25
	学会発表 (単独・国外)	“Landscapes and Power in Japanese Textbooks: Past and Present” (Hong Kong Institute of Education, Center for Citizenship Education, 香港教育学院)	2007.6
	学会発表 (単独・国外)	“Social Studies in East Asia: Changes and Issues” (87th Annual Conference, National Council of Social Studies (NCSS), College and University Faculty Assembly (CUFA), San Diego, USA)	2007.11
樋口 耕一	学会発表 (単独・国内)	「現代の新聞と人々の意識—全国紙の内容分析は社会調査の一環たりうるか」(第58回関西社会学会, 於:同志社大学)	2007.5.26
	学会発表 (単独・国内)	「計量テキスト分析の提案と実践(ワークショップ:テキストマイニングによる内容分析の現状と課題)」(日本社会心理学会第48回大会, 於:早稲田大学)	2007.9.24
	シンポジウム 講演(単独)	「計量テキスト分析の提案—その方法と実現のためのプログラム」(日本質的心理学会研究交流委員会主催シンポジウム「テキストマイニングからみた質的研究のもう一つの未来」, 於:立命館大学)	2008.2.2
	シンポジウム 講演(単独)	「[計量テキスト分析]による言語データの解釈」(関西学院大学大学院社会学研究科21世紀 COE プログラム 2007年度連続シンポジウム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」第3回「社会調査と言語」, 於:関西学院大学)	2007.10.13
日高 勝之	論文(単著)	“The Conditions of Research into Nationalism and National Identity: The Bridging between Classical and Post-classical Perspectives” (神戸親和女子大学『研究論叢』41号, 神戸親和女子大学) 73-84頁	2008.3
	論文(単著)	“Globalisation and Internatinal Relation Theories: ‘Multipolar Mitosis’? Approaching Media, MNCs, and Security” (神戸親和女子大学『研究論叢』41号, 神戸親和女子大学) 85-98頁	2008.3
	学会発表 (単独・国外)	「NHK and the Japanese Media in the Turbulent Era of Overconsumption」(Oxford University Japan Society Seminar (おける Oriental Institute at Oxford University, UK))	2007.11

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
日高 勝之	学会発表 (単独・国外)	「Ideology and Neutrality of Japanese Journalism」(Oxford University Japan Society Seminar (おける Oriental Institute at Oxford University, UK))	2008. 2
深澤 敦	論文(単著)	「フランスにおける家族手当制度の形成と展開—第一次世界大戦後のバリ地域補償金庫を中心として—(上)」(『立命館産業社会論集』43巻4号) 23-46頁	2008. 3
福間 良明	著書(単著)	『殉国と反逆: 「特攻」の語りの戦後史』(青弓社) 全218頁	2007. 7
	著書 (分担執筆)	『東アジアの終戦記念日』(佐藤卓己・孫安石編, 第4章「沖縄における『終戦』のゆらぎ」, 筑摩書房) 85-118頁	2007. 7
	著書 (分担執筆)	『戦間期日本の社会集団とネットワーク』(猪木武徳編 第7章「民族知の制度化」, NTT出版) 158-182頁	2008. 3
	著書 (分担執筆)	『ラーニング・アロン』(佐藤卓己・井上義和著 第6章「社会通信教育の変容と『改善の知』の系譜」, 新曜社) 161-192頁	2008. 3
宝月 誠	論文(単著)	「『ポーランド農民』の方法論再考」(『立命館産業社会論集』43巻3号) 39-59頁	2007.12
	論文(単著)	「シカゴ学派の逸脱研究の再検討」(『平成17年～平成19年度科学研究費補助金(基盤研究(C))研究成果報告書』, 立命館大学産業社会学部) 1-121頁	2008. 3
	書評(単著)	「徳川直人『G. H. ミードの社会理論』」(『社会学研究』82号, 東北社会学研究会) 147-153頁	2007.10
Ian T. Hosack	学会発表 (単独・国内)	“Deliberative Polls: Enhancing Democratic Citizenship” (Peace as a Global Language Conference VI, Kyoto University of Foreign Studies, Kyoto, Japan.)	2007.10.28
前田 信彦	論文(単著)	“Transition to Later Life and Quality of Life” (Stam, J.A., Veenhoven, R. (eds.) Quality of Life & Happiness of people. NIOD Encounter Series Volume 1., KIT Publishers. The Netherlands) pp.122-139	
	学会発表 (単独・国内)	「高齢期における地域生活の治安とヒューマンセーフティ」(『セーフコミュニティ・サーベイランス国際会議: 京都』)	2008. 3
松田 亮三	論文(単著)	「保健・医療・福祉の総合的展開に向けて—2006年医療改革法後の制度的枠組みを踏まえて—」(『月間自治フォーラム』, Vol.574) 11-17頁	2007. 7
	論文(単著)	「21世紀の都市環境と人の健康」(『アーバン・アドバンス』No.44, 名古屋都市センター) 5-12頁	2007.10
	論文(共著)	「健康格差と社会政策: 政策内容と政策過程」(近藤克則『保健医療科学』56(2)) 63-75頁	2007. 8
	報告(単著)	“National Action Plan on Cancer Care” (Health Policy Monitor, October 2007. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a10/5)	2007.10
	報告(単著)	“Reorganization of regular health check-ups” (Health Policy Monitor, October 2007. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a10/4)	2007.10
	報告(単著)	“Delegation of Government-Managed Health Insurance” (Health Policy Monitor, October 2007. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a10/3)	2007.10
	報告(単著)	“Addressing the Physician Shortage” (Health Policy Monitor, October 2007. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a10/2)	2007.10
	報告(単著)	“Improving functions of the frail elderly” (Health Policy Monitor, October 2007. Available at http://www.hpm.org/survey/jp/a10/1)	2007.10

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
松田 亮三	報告書(共編)	「医療・福祉における地域・住民エンパワメントーエンパワメントに向けたイノベーションー」(棟居徳子共編, オープンリサーチセンター整備事業『臨床人間科学の構築』ヒューマンサービスリサーチシリーズ7, 京都:立命館大学人間科学研究所)	2008.2
松葉 正文	紹介(单著)	「M. ヴェーバーと経済倫理: 主要五論文を中心として」(『立命館産業社会論集』43巻3号) 107-132頁	2007.12
	覚書(单著)	「J.J. ルソーの所有問題について: 主要三著作を中心として」(『立命館産業社会論集』43巻4号) 175-185頁	2008.3
峰島 厚	著書(单著)	『障害者自立支援法と実践の創造』(全国障害者問題研究会出版部) 全150頁	2007.7
	論文(单著)	「障害者の日中活動の保障」(障害者生活支援システム研究会編『障害者自立支援法と人間らしく生きる権利, かもがわ出版) 78-98頁	2007.4
	論文(单著)	「障害者自立支援法施行後の動向と私たちの課題(上)」(『みんなのねがい』2007年4月号, 全国障害者問題研究会出版部) 44-46頁	2007.4
	論文(单著)	「障害者自立支援法施行後の動向と私たちの課題(下)」(『みんなのねがい』2007年5月号) 44-46頁	2007.5
	論文(单著)	「障害者入所施設の脱施設化にみる居住施策の検討」(『居住福祉学研究』5号, 日本居住福祉学会) 11-15頁	2007.5
	論文(单著)	「地域で自立はすすんだのかー障害者自立支援法を考える」(『月刊保団連』2007年7月号(941号), 全国保険医団体連合会) 4-10頁	2007.7
	論文(单著)	「心臓病者にとつての障害者自立支援法」(全国心臓病の子どもを守る会編『心臓を守る』2007年8月号(521号), 全国心臓病の子どもを守る会) 12-13頁	2007.8
	論文(单著)	「権利保障運動の成果と課題」(全障研研究推進委員会編『障害者の人権と発達』, 全国障害者問題研究会出版部) 57-67頁	2007.8
	論文(单著)	「働きたいというねがいに応えるために一雇用制度を改善する取り組みと労働教育の課題」(『みんなのねがい』2007年12月号) 16-19頁	2007.12
	論文(单著)	「障害者自立支援法と障害者の人権保障」(『人権21調査と研究』191号, 岡山人権問題研究所) 3-15頁	2007.12
	論文(单著)	「障害者自立支援法は出直すしかないー抜本的見直しにむけて」(『みんなのねがい』2008年3月号) 44-46頁	2008.3
	翻訳(共訳)	「プロイセン州「公的肢体不自由者福祉法」, 同法施行令(1920)」(『立命館産業社会論集』43巻2号) 127-145頁	2007.9
	学会発表(共同・国内)	自主シンポジウム「一般就労を考える(2)自己決定をめぐって」(日本特殊教育学会45回大会発表要旨集, 日本特殊教育学会) 44頁	2007.9
	宮下 晋吉	著書(单著)	『模倣から「科学大国」へー19世紀ドイツにおける科学と技術の社会史』(世界思想社) 全428頁
論文(单著)		「F. Reuleaux と産業助成協会の新展開に関する一論考ーフィラデルフィア万国博覧会からドイツ帝国特許法, 世界市場展開へー」(『立命館産業社会論集』43巻2号) 21-44頁	2007.9
村本 邦子	論文(单著)	「虐待防止の親教育」, 「DV 被害を受けた母子への二次予防的介入」(『コミュニティ心理学ハンドブック』, 日本コミュニティ心理学会編, 東京大学出版会) 577-581, 582-586頁	2007.6
	論文(单著)	「DV への危機介入」(『エンパワメントのカウンセリング』第三章, 井上孝代, 川島書房) 65-84頁	2008.1

名前	種別	書名, 論文名等, (掲載書名・誌名(巻号), 出版社・発行所), 頁	発行年月
村本 邦子	論文(単著)	「民間法人における性虐待被害者とのかかわり」(『性虐待をふせぐ—子どもを守る術』第8章, 石川瞭子編著, 誠信書房) 149-159頁	2008. 2
	論文(単著)	「児童虐待—なぜ起きる? どう対処すればいいのか?」(『滋賀の部落』, 滋賀県同和問題研究所)	2007. 7
	論文(単著)	「仕事観の形成とワークライフバランス」(『女性ライフサイクル研究』17号) 8-15頁	2007.11
	論文(単著)	「Multidimensional Assessment of Trauma Impact, Recovery, and Resilience: A Brief Report on the Japanese Version of the MTRR-99」(“Journal of Aggression, Maltreatment & Trauma” No. 14) pp. 107-118	2007.11
	論文(単著)	「からだとイメージ」(『心理臨床における臨床イメージ体験』, 創元社) 234-235頁	2008. 3
	学会発表 (共同・国内)	「ワークショップ法曹養成教育における法と心理の連携」(法と心理学会第6回ワークショップ, 於: 立命館大学)	2007. 6
	学会発表 (共同・国内)	「倫理ワークショップ」(日本コミュニティ心理学会第10回大会, 於: 九州大学)	2007. 8
学会発表 (単独・国外)	「戦争と女性」(International conference Remembering Nanjing On the 70th anniversary of the Nanjing Tragedy)	2007.11	
森田 真樹	論文(単著)	「カナダにおけるグローバル教育の展開」(日本グローバル教育学会編『グローバル教育の理論と実践』, 教育開発研究所) 46-49頁	2007.11
森西 真弓	著書(共著)	『吉田玉男 文楽藝話』(日本芸術文化振興会) 全287頁	2007. 9
	著書(単編著)	『上方芸能事典』(岩波書店) 全602頁	2008. 3
門田幸太郎	学会発表 (単独・国外)	“Two-stage decision making in the Monty Hall Dilemma” (The 10th European Congress of Psychology (Prague))	2007. 7
柳澤 伸司	調査報告 (単著)	「外国新聞の概況 北欧」(日本新聞協会編『日本新聞年鑑 '07/'08年版』, 電通) 90-91頁	2007.11
	その他(単著)	「優れたNIE実践とは—理論化のためのフレームづくり—」(『日本NIE学会誌 2008 第3号』, 日本NIE学会) 81-83頁	2008. 3
山下 秋二	論文(共著)	「生徒の価値態度からみた体育授業の構成要因および各要因を代表する項目の検討—体育授業の目標・学習内容を踏まえて—」(『日本教科教育学会誌』30巻4号, 日本教科教育学会) 29-38頁	2008. 3
山下 芳樹	著書(単著)	『高校物理 ‘検定外’ 教科書』(宝島社) 全256頁	2007. 8
	著書(共著)	『大人のためのサイエンスIQ』(化学同人) 全195頁	2008. 2
	書評(単著)	「世界でもっと美しい10の科学実験」(Rika-tan (理科の探究), 星の環会) 1頁	2008.10
山本 耕平	論文(単著)	「障害者の社会参加と人的支援」(『リハビリテーション 障害者の福祉』27巻9月号) 10-13頁	2007. 9
	論文(単著)	「いま, 障害者グループホーム・ケアホームは, いま何を考えなければならぬのか」(『福祉のひろば』) 8-16頁	2008. 2
リム ボン	論文(共著)	「権利家計からみ日コリアンが集住する長屋ブロックの空間変容」(韓勝旭『日本建築学会論文報告集』619号) 93-99頁	2007
	論文(単著)	「歴史都市・京都の個性と魅力づくり—その具体策を考える—」(『都市研究・京都』20) 45-56頁	2007